

目 次

I. 総括研究報告

切れ目のないポリファーマシー対策を提供するための 薬剤師間の情報連携の推進に資する研究	----- 1
溝神文博	
（資料）表1 病院薬剤師が使用する情報連携ツール	
表2 情報連携ツール内の記載項目	
表3 薬局薬剤師が使用する情報連携ツール	
別添1 薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握 報告書	
別添2 薬剤師間の情報連携ツールの開発に関する中間とりまとめ	
別添3 三豊総合病院の視察報告書	

II. 分担研究報告

1. 薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握 （薬剤師間情報連携）	----- 90
亀井美和子	
（資料）表1 質問項目1, 2, 3	
表2 質問項目7	
表3 質問項目8, 9, 10, 11（前問で「はい」と回答した方）	
表4 質問項目13	
表5 質問項目14, 15（前問で「はい」と回答した方）	
表6 質問項目5, 16, 18, 20, 22, 29	
表7 質問項目24, 25, 26, 27, 28, 31	
表8 質問項目32（前問で「はい」と回答した方）	
表9 質問項目35, 36, 37	
表10 質問項目38, 40	
表11 質問項目4, 12, 15, 33, 34, 39	
2. 薬剤師間の情報連携ツールに関する網羅的調査／ 薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握 （民間事業者（電子薬歴等））	----- 100
水野智博	

3. 薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握

(薬剤師間情報連携) ----- 104

藤原久登

(資料) 図1 薬剤師間の情報連携は薬物治療の向上につながると思いませんか？

図2 連携が必要だと思う理由

図3 情報提供書の作成で、提供する情報が不足していると感じますか？

図4 情報提供書作成時の課題についての問いに対して、時間的な困難を感じるか？

図5 薬剤師間の情報交換のコミュニケーションツールに何を使用していますか？

図6 多職種連携は薬物治療の向上につながると思いませんか？

4. 薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握

(多職種間情報連携、ポリファーマシー対策チーム) ----- 109

島崎良和

(資料) 図1 常勤薬剤師数

図2 病床数

図3 病院内で多剤併用やPIMs投与などの患者を自動的に抽出するツールはありますか？

図4 薬剤調整を提案するカンファレンスの主な種類は何ですか。

図5 【入院】薬剤総合評価調整加算件数（月平均）

図6 【入院】薬剤調整加算件数（月平均）

図7 介入する患者の剤数の目安

図8 ポリファーマシー対策を行う際に、事前に前の担当医へ情報提供を求めることがありますか

図9 ポリファーマシー対策を行う際に、事前に保険薬局へ情報提供を求めることがありますか

図10 薬剤師が患者聞き取り時に取得している 高齢者総合的機能評価（CGA）があれば教えてください

図11 情報を共有する際に直接医療機関に文書を郵送することはありますか

図12 保険薬局から受けとった情報（トレーシングレポートなど）で薬剤部から医師に伝えた場合に、処方に変更になるケースはありますか

- 別添① 東京都健康長寿医療センター入院時の薬剤調整フロー
- 別添② 東京都健康長寿医療センターにおける機能評価
- 別添③ 【入院時】多剤併用チェックシート10剤以上
- 別添④ 多剤併用チェックシート10剤以上
- 別添⑤ 病院薬剤師から薬局への情報提供

5. 薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握	
（多職種間情報連携）	----- 120
小島太郎	

6. 薬剤師間および多職種との情報連携に関する実態把握	
（多職種間情報連携）	----- 124
竹屋 泰	

III. 研究成果の刊行に関する一覧表	----- 128
---------------------	-----------